

2024年2月22日

特定非営利活動法人 日本卵殻膜推進協会

NPO法人 日本卵殻膜推進協会の 組織体制変更のお知らせ

この度、特定非営利活動法人 日本卵殻膜推進協会は、体制強化を目的に組織体制を変更いたしましたのでお知らせいたします。当協会では、新体制のもと、卵殻膜に関する知識の普及・認知向上のための活動、および卵殻膜原料・卵殻膜配合製品の品質・安全性向上のための規格・試験法などの検討・提案に関わる活動を推進して参ります。

引き続き卵殻膜業界へ貢献できるよう邁進していく所存でございますので、今後とも格別のご支援・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

新組織体制

【理事長】

谷藤 尚貴(米子工業高等専門学校 総合工学科 化学・バイオ部門教授)

【副理事長】

加藤 久典(女子栄養大学 栄養学部 教授)

【理事】 *順不同

跡見 順子(帝京大学 先端総合研究機構寄付講座 特任教授、東京大学名誉教授)

清水 美穂(帝京大学 先端総合研究機構寄付講座 特任准教授)

賈 慧娟(東京大学 大学院農学生命科学研究科 特任研究員)

池尻 昭爾(元株式会社資生堂 執行役員)

【監事】

蕨 博雅(株式会社アルマード 取締役)

理事長 谷藤尚貴 ご挨拶

卵からひよこが孵化するまでの間、卵の殻はその生命を守る役割を担っています。この殻の内側には薄い膜があることを、食用の卵を消費している皆様はご存知かと思います。この膜は「卵殻膜」と呼ばれており、現在卵殻膜を化粧品等の成分に導入した市販品は、テレビ広告や店頭で見かけられるようになりました。

卵殻膜は、古来より傷や火傷の治療に有効な素材であることが知られています。中国では明代の薬学書「本草綱目」に傷の治療として使用事例が記載されています。日本では、戦国時代には兵士が野戦で負傷した傷に貼り、早期治療のために用いたと伝えられています。近年、これらの事例を科学的現象として着目することで、とくに卵殻膜を予防医学の素材として利活用できる可能性を検証する研究が行われ、人の健康増進効果や皮膚への効果などが明らかになりました。その他にも、卵殻膜が有する化学

的・物理的な特徴は生命科学以外の材料分野でも応用が進められており、学術論文での報告や特許出願も増えています。今後この素材がどのように応用発展していくのか、卵殻膜を長年研究対象として扱ってきた私にも予想ができません。そして、我々が気づくことができていない機能が、卵殻膜にはまだいくつも眠っているのではないかと考えています。

世界中で食べられている卵から得られる卵殻膜の可能性について、学術集会や研修会等を通じて情報共有と外部発信をして、得られた知識を少しでも多くの人たちに役立て頂くために本法人は設立されました。卵殻膜について関心をお持ちの個人や事業者様のご参加を期待しています。

日本卵殻膜推進協会について

NPO法人 日本卵殻膜推進協会は、2011年に発足しました。美と健康をもたらす卵殻膜に関する知識の普及・認知向上を目的として、卵殻膜に関する様々な情報収集とその発信等を行う非営利団体です。

また、卵殻膜原料・卵殻膜配合製品の品質・安全性向上のための規格・試験法などを検討・提案し、国民の健康に寄与することを目指します。

・NPO法人 日本卵殻膜推進協会サイト：<http://eggmem.org/>

お問い合わせはこちら

・お問い合わせフォーム：<https://eggmem.sakura.ne.jp/contact/>

<本件もしくは当協会に関する取材・お問合せ先>

日本卵殻膜推進協会 事務局

メールアドレス：otoiawase@eggmem.org